

## [概要]

高度経済成長期以降の団塊ジュニア世代に着目し、地方都市郊外の団地居住者における近居選択者の特徴を居住経歴から明らかにすることが研究目的である。方法論的枠組みとしてライフコース・アプローチを採用し、富山市つばめ野の居住者を対象にアンケート・インタビュー調査を行った。その結果、高校卒業後から結婚前まで親と同居していたライフコースを持つ住民は、結婚後戸建住宅を持つ際に自身の親の居住地の近くに自宅を構える傾向があり、親世帯への往来頻度も高いことが分かった。また、高校卒業後の転居はあるが結婚前まで親と同地域内に居住しているライフコースを持つ人は、自身の親の居住地と比べ義両親の居住地の方がつばめ野に近いが、義両親より自身の親の往来頻度が高い傾向が見られた。特に、女性は子育て支援先として自身の母親を頼るため往来頻度が高いことが分かった。これは、ライフコースが子育てを見据えた近居や往来頻度に影響を及ぼしていることを示している。

キーワード：近居，ライフコース，居住経歴，子育て，往来頻度